

令和4年度 中高生俳句バトルinあらかわ 各リーグ対戦結果

甲リーグ

	開成高	名古屋A	横浜 翠嵐	立教 池袋B
開成高		○ 3-0	○ 3-0	○ 3-0
名古屋A	× 0-3		× 1-2	× 1-2
横浜 翠嵐	× 0-3	○ 2-1		× 1-2
立教 池袋B	× 0-3	○ 2-1	○ 2-1	

乙リーグ

	海城	立教 池袋A	名古屋B	開成中
海城		○ 2-1	× 1-2	× 1-2
立教 池袋A	× 1-2		× 0-3	○ 2-1
名古屋B	○ 2-1	○ 3-0		○ 2-1
開成中	○ 2-1	× 1-2	× 1-2	

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

甲リーグ 第一試合 兼題「国」

白名古屋A

3	2	1
建国の日やレコードの針震へ	国行の刃紋たふとし百千鳥	国境へ吐く息荒し幣辛夷
中3	高1	高1
水野 結雅	鈴木 哲平	三浦 英雄

赤開成高

3	2	1
重力の中途半端に蝌蚪の国	天国が少し不安で土筆摘む	鯉食うて臍の国にねむるなり
中3	高2	高2
工藤 直樹	渡部 島尾	鈴木文句朗

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

甲リーグ 第二試合 兼題「国」

白立教池袋B

3	2	1
一国に一つの日差しむつごろう	国教に貧しき聖地沈丁花	春雨のひときは響く国語かな
高2	高2	高1
赤松 優	岡部 優司	水野 昌幸

赤横浜翠嵐

3	2	1
山国をバイク傾け風光る	国語はや解き終わりなお春驟雨	「帝國」の薄く地球儀春兆す
高1	高1	高2
河合菜々子	新堀 笙子	相原 乙葉

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

甲リーグ 第三試合 兼題「破」

白横浜翠嵐

3	2	1
ビール瓶破片なめらか春の海	桜貝海と渚の破れ目に	遠足や破れた膝のアップリケ
高1	高1	高2
河合菜々子	新堀 笙子	相原 乙葉

赤開成高

3	2	1
鳥帰る読破ののちのさびしさに	海市見に大破の車横目にゆく	障子破けばいつせいに芽吹きけり
高2	高2	中3
林 洸輝	鈴木文句朗	工藤 直樹

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

甲リーグ 第四試合 兼題「破」

白立教池袋B

3	2	1
破天連の銃身に龍星隴	啓蟄やトイレに世界地図破れ	麦踏や海のにほひの破戒僧
高2	高1	高2
岡部 優司	大竹 七生	赤松 優

赤名古屋A

3	2	1
花冷を破りし真夜の解熱薬	末黒野を駆けゆく未来図は破線	序破急は知らぬ存ぜぬ恋の猫
高1	高1	中3
小田 健太	三浦 英雄	水野 結雅

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

甲リーグ 第五試合 兼題「山」

白開成高

3	2	1
けしごむのもちもちとして山笑ふ	山鳩の声があいつしか春の雲	風車挿して山河を引き寄せぬ
中3	高2	高2
佐藤 義貴	林 洸輝	鈴木文句朗

赤立教池袋B

3	2	1
鉢山の町はあかるし春の蝶	遡上魚に無邪気な腹や山笑ふ	登山家の家の小さし花薺
高2	高2	高2
岡部 優司	越智 勇仁	赤松 優

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

甲リーグ 第六試合 兼題「山」

白名古屋 A

3	2	1
ふりかけの昆布はかたし春の山	山吹を手折り抜糸の痕に熱	だぶだぶと眠る象亀山笑ふ
高1	高2	高1
三浦 英雄	佐々木太亮	小田 健太

赤横浜翠嵐

3	2	1
詩集より埃の匂い山笑う	山一つ越えてコンビニ春兆す	ゴミ捨て場に教科書の山うららかに
高1	高2	高1
河合菜々子	相原 乙葉	新堀 笙子

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

乙リーグ 第一試合 兼題「国」

白立教池袋 A

3	2	1
しづけさに国の整ふ春の宵	この国に天の衣のごとく風	山国は雨のあざやか春障子
高1	高1	高2
栗山 輝	川本 伊吹	辻村 幸多

赤海城

3	2	1
与那国のコーラのベンチ鳥雲に	三限の国語は自習木の根明く	帰国してポストは赤し風信子
高1	高1	高1
柿木 晴翔	天野 太喜	濱野 佑太

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

乙リーグ 第二試合 兼題「国」

白開成中

3	2	1
外つ国のグミの硬さよ花疲	ちちははに国言葉あり春の泥	北国の農具大きく花の昼
中1	中2	中2
田中 煌人	太田 惺	田中 仁

赤名古屋B

3	2	1
霧や国の字に王幽されて	くろぐろと影の栄へて蛸蚪の国	畳みたる道着の嵩し建国祭
高1	中1	高1
服部 亮汰	富田 輝	加納 輝一

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

乙リーグ 第三試合 兼題「破」

白名古屋B

3	2	1
降りてきし蝶々を陽の破片とも	風船売破船の如く樹の蔭に	花冷や給油所の屋根破れゐて
高2	高2	高1
堀内 晴斗	幸村 遥都	服部 亮汰

赤海城

3	2	1
上履きの破れて卒業式の風	潮まねき破船の木屑かきわけて	碁盤めく楽譜は破れ春の星
高1	高1	高1
柿木 晴翔	遠藤 泰介	天野 太喜

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

乙リーグ 第四試合 兼題「破」

白開成中

3	2	1
卒業歌破る誰かのラのシャープ	破れなき本の冷たく春の雲	裏山に発破のひとつ卒業式
中1	中2	中2
原島 奏	田中 仁	太田 惺

赤立教池袋A

3	2	1
ひとひらにはらりと破れ花筏	伊予柑をゆふぐれの破片とおもふ	唐破風の紋の波なす雪柳
高1	高2	高1
栗本 拓実	辻村 幸多	小林佳武以

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

乙リーグ 第五試合 兼題「山」

白海城

3	2	1
夜桜や山手線に上着脱ぐ	灰皿の立つ駐車場花の山	山小屋のそばに倒木風光る
高1	高1	高1
宮下 遼大	中村 治樹	濱野 佑太

赤開成中

3	2	1
目貼剥ぐいつきに山の香が鼻に	初めてのベルト似合はず山笑ふ	山に呼ばれて北窓を開きけり
中1	中1	中2
有澤 大輝	森本 健士	太田 惺

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

乙リーグ 第六試合 兼題「山」

白立教池袋 A

3	2	1
死火山は古りゆくばかり雪解風	鈍行の彷徨つてゐる春の山	夜の山に歌の広がるねぢあやめ
高2	高1	高1
辻村 幸多	小林佳武以	川本 伊吹

赤名古屋 B

3	2	1
卒業や緞帳に山あをあをと	山羊すでに抱けぬ大きき風光る	山笑ふロールキャベツの楊枝抜き
高1	高2	高1
加納 輝一	堀内 晴斗	服部 亮汰

令和四年度 中高生俳句バトル in あらかわ

決勝戦 兼題「河」

白名古屋B

5	4	3	2	1
風船売河の早さに歩むなり	氷河期と氷河期の間の朝寝かな	お彼岸や河馬一頭に池濁り	春の蠅模型の河のざらつける	囀やサラダに河の如くハム
中2	高2	高2	高1	高1
東野 礼豊	堀内 晴斗	幸村 遥都	服部 亮汰	加納 輝一

赤開成高

5	4	3	2	1
河原にゐる卒業の日の吾がある	大河その向かうの春の誰もゐず	花過やみそかに実る河馬の恋	遠足は河馬の口腔見て次へ	つちふるのまひるを河の動かざる
高1	高2	高2	高2	中3
下島 利樹	林 洸輝	鈴木丈句朗	渡部 島尾	工藤 直樹

令和四年度 中高生俳句バトル in あらかわ

試合で使用しなかった句

開成中 兼題「河」

5	4	3	2	1
あとがきは桜薬降る大河かな	北窓を開けて山河を噛み締めよ	春陰やのんのん歩き河合塾	河沿ひに小さき旅館春浅し	花疲れ河口に油膜張つてをり
中1	中1	中1	中2	中2
田中 煌人	森本 健士	有澤 大輝	田中 仁	太田 惺

海城 兼題「河」

5	4	3	2	1
河匂ふ鳥の巢に目が見開かれ	いぬふぐり河童の親子舐め合うて	夕永し河原の鳥を数えたり	春の河飛び石沈みかけていて	春愉し運河に船がいるだけで
1	1	1	1	1
中村 直樹	柿木 晴翔	宮下 遼大	深井 直輝	濱野 佑太

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

試合で使用しなかった句

立教池袋 A 兼題「河」

5	4	3	2	1
春夕焼清らかな血のごとく河	花吹雪赫灼と都会の河へ	夕東風を梳りたるやうに渡河	清貧な鹿尾菜が河岸の宿に	河をゆく心地よ風の藤棚は
1	1	2	1	1
栗本 拓実	栗山 輝	辻村 幸多	小林佳武以	川本 伊吹

立教池袋 B 兼題「河」

5	4	3	2	1
豆の花神社は河に隔たるる	懸河へと光の黄金桜散る	不揃ひな牙の河童やいかのぼり	公魚の重き体の通る河	草餅や河口に影のとどまらず
2	1	2	2	1
岡部 優司	水野 昌幸	赤松 優	越智 勇仁	大竹 七生

令和四年度 中高生俳句バトルinあらかわ

試合で使用しなかった句

名古屋 A 兼題「河」

5	4	3	2	1
土笛の鳥の拙き春河かな	星幾つ呑むや虚子忌の駿河湾	草餅やまひるの河岸に脚垂らし	春愁の息は河内の舟溜	手拭ひをまはせば茎立の河か
高1	高1	高1	高2	中3
小田 健太	鈴木 哲平	三浦 英雄	佐々木太亮	水野 結雅

横浜翠嵐 兼題「河」

5	4	3	2	1
河底の石に足触れ夏近し	春塵の積もれる死骸河川敷	河底になにか蠢く春の闇	河川敷春めく初のシヨートヘア	桜まじ猫背の君と見る大河
高1	高2	高1	高2	高1
新堀 笙子	相原 乙葉	新堀 笙子	相原 乙葉	河合菜々子